

第13回バイオマス部会・研究会合同交流会の報告

バイオマス合同交流会は、バイオマス研究に関係する6つの団体（注1）が共同で毎年開催している合同交流会で、様々な研究のバックグラウンドを有するバイオマス研究者の交流を目的としています。

今年度は、日本木材学会バイオマス変換研究会が担当し、平成25年10月25日（金）に東京大学弥生講堂にて、「マテリアル利用が先導するバイオマス利活用のイノベーション」のテーマで交流会を開催いたしました。

当日は、各部会・研究会の昨年1年間の活動報告を行った後、以下の4名の先生方にご講演を頂きました。

- 東京大学大学院農学生命科学研究科・鮫島正浩：木材のマテリアル利用とエネルギー利用の理想的な共存化
- （独）森林総合研究所バイオマス化学研究領域・山田竜彦：バイオマスの価値を向上させるリグニンの高度マテリアル利用システムの開発
- 京大大学生存圏研究所・矢野浩之：未来の車は植物で創る-セルロースナノファイバーで見る夢-
- 日本バイオプラスチック協会・猪股 勲：バイオマス利活用によるバイオプラスチックの進展拡大

参加者は150名を超え、バイオマスのマテリアル利用に関する注目の高まりを感じる1日でした。夕方からの懇親会にも多くの方が参加され、大変な盛り上がりを見せていました。

（注1）（一社）日本木材学会バイオマス変換研究会、（公社）化学工学会エネルギー部会バイオマス分科会、（一社）日本エネルギー学会バイオマス部会、（一財）バイオインダストリー協会アルコール・バイオマス研究会、バイオマス利用研究会、木質バイオマス利用研究会